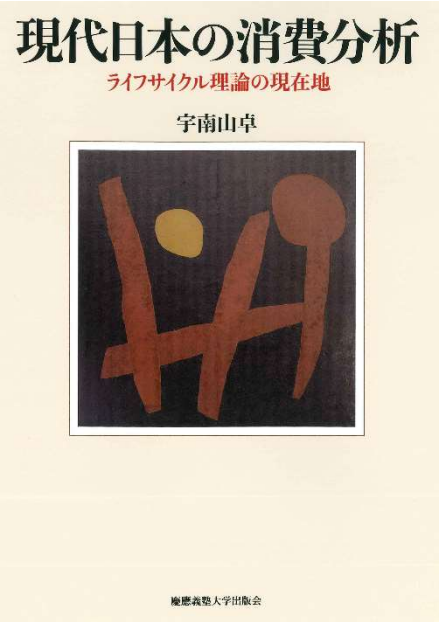
受賞作品

現代日本の消費分析

ライフサイクル理論の現在地

宇南山 卓　著

慶應義塾大学出版会　532 ページ、6,800 円（税別）



書評　　固有の消費行動に新知見

東京大学教授　　福田　慎一

日本の家計がどのような消費行動をしているかを、ライフサイクル理論をもとに多角的に考察した力作である。分析に必要な理論やデータを体系的に整理し、先行研究を踏まえた手堅い実証分析が展開されている。

海外の研究手法をそのまま適用するのではなく、日本固有の特徴を幅広く分析に取り入れることで、消費行動に関する新たな知見を数多く提供している。家計調査などミクロデータについても詳細に解説し、経済統計の観点からマクロとミクロの家計消費データの利用可能性を丹念に検討している点も興味深い。

家計は自らの効用を最大にするように消費行動を決定しているとするライフサイクル理論は、世代間の結びつきを考えないため、説明できない部分もある。その限界を認識しつつ、ライフサイクル理論の枠組みで日本の消費行動をどこまで説明できるかを一貫して追求、海外の研究とも比較可能な著者自身のオリジナルな研究成果を一つの書籍としてまとめたことは意義深い。

消費税率引き上げや現金給付・商品券給付の影響など実際の政策に関する議論も豊富で、日本経済の重要課題に多くの興味深い解答を与えてくれている。５００ページにわたる大著だが、全体を通じてライフサイクル理論に関する過去半世紀余りの研究の進展が丁寧に説明されており、研究書としてだけでなく、大学院生・研究者向けの優れた啓蒙書としても評価できる。